

# 東京白楊だより

第33号

平成22年.9.3  
(2010年)



白楊ヶ丘同窓会東京支部

旧制函館中学校 函館中部高等学校

ホームページアドレス <http://www.h6.dion.ne.jp/~kanchu/>

## 支部長ご挨拶



白楊ヶ丘同窓会東京支部長  
安田 康次  
67期(昭和40年卒)

皆様にはその後お変わりなくお過ごしのことと存じます。平素は同窓会の発展にご尽力賜り、厚く御礼申し上げます。

今年の東京地方は、春は桜の開花が早く、3月下旬には満開に近い状態になったにも係わらず、4月には雪が降るといふ異常な天候がありました。又、夏には各地でゲリラ豪雨による水の被害も多く発生しました。これも地球温暖化の影響でしょうか。

このような不安定な状況は景気にも関係するののか、いまだ景気回復の兆しも見えにくく、失業率も5%台と大きく、新卒者の雇用も大変厳しいと聞いております。このような中、今年も無事親睦大会が開催できる事を、大変うれしく思っております。

今年の親睦大会は、80期(S53年卒)が幹事期となり、昨年の大会終了後、早速準備を始め、頑張つてこられました。幹事の皆さんが知恵を出し合つて、心づくしの企画をしております。その成果を少しでもたくさんの方々に応援していただきたく、10月30日には、是非、ご出席くださいますよう、心よりお待ち申し上げます。

早いもので、10月で支部長就任3年となり、任期満了となりますが、評議員、理事の推薦を受け、引き続き支部長をさせていただきます事になりました。今後とも宜しくお願い申し上げます。

私共東京支部の課題でありました、事務所移転でございますが、中々良い場所が見つからず、自分、小生の自宅を仮事務所として運営していく事に致しました。皆様にはご不便をおかけしますが、宜しくお願いいたします。

尚、事務所探しは、継続して進めております。お心ある方のご協力や、或いは情報などがございましたら、ご一報くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

今年度は東京支部ホームページの充実を若手スタッフを中心に、検索エンジンでヒットしやすくし、卒業生の著作、創作活動の紹介、PRなどを積極的に進めて行こうと思っております。その他にも課題は多々ありますが、若い方の参加者が少しでも多くなるような同窓会支部を目指し、伝統ある白楊ヶ丘同窓会を盛り上げて行きたいと思っております。

最後になりますが、これからも役員一同、なお一層、同窓会の発展に努力してまいりますので、皆様のご指導、ご協力をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

# 本物志向の教育を

函館中部高等学校長 小林 雄司



この度の人事異動で旭川西高校より赴任して参りました小林です。前任の黒田校長とは違い本校同窓ではありませんが誠心誠意生徒のため努力してまいりますのでよろしくお願致します。

ここ数ヶ月間見ていると、地域の期待を背負いながら一生懸命進学指導に献身的に指導している先生方の様子には頭の下がる思いがした。それに比較して生徒の方がのんびりとした生活をしている。有力私学のある函館の状況を見ると将来の同窓生には常に中部高校がこの地区の進学校として誇りの持てる学校でいるためにも一層の奮起を期待している。そのためには進路意欲をいかに高めてやるかが鍵を握る。そこで本校での意欲向上のための特徴的な二つの取組について紹介する。

## 1 医進類型指定校

これは昨今の医師不足解消のため本道肝いりの事業で、期待されて本校は管内唯一指定を受けている。

### (1) 高校生メディカル講座

今年6月19日旭川医科大学より入学センター教授坂本氏と放射線科副科長の山田氏を招いて48名

の参加で講演と講義。生徒による地域医療に関するプレゼンテーションの後、医療職を目指す上での心構えや画像診断の進歩について学ぶ。年2回の予定

### (2) 医療体験報告会

本校医学部医学科志望者がこの3月に報告会に参加し、その際札幌手稲区仁会病院にて救命救急センターとドクターヘリ見学。

### (3) 病院一日体験実習

函館五稜郭病院の全面的な協力のもと様々な現場を直接体験する。

### (4) メディカルミートイング

3年生を対象に年5回程度医療に関する意見交換の場を設定。

### (5) グループ勉強会

1、2年生対象に、医療志望者としての自発的意欲を高めるため、ディスカッションを通して積極的なコミュニケーションの姿勢を育成。年6回程度予定

## 2 英語教育の取組

新たな英語教育の在り方を研究するようにと、先進校として文科省から「英語教育改善のための調査研究校」の指定を受けている。

### (1) 語学研修(短期研修)

海外四大学連携プログラムとして英国バンガー大学へホームステイをしながらの語学研修。今年9名参加  
(2) 学校交流  
本校生徒の異国文化、歴史並びに言語などへの学習動機を高める機会として積極的に取り組む。今年はフィリピンからの大学生23名と交流。



以上の取組が生徒の変容にいかにかに寄与していくのか、しっかりと検証していく必要がある。そういう意味では成果が問われる時期になってきており、本校にとっては正念場であると自覚しなければならぬと考えている。

次に、本校の大切な柱として期待されていることは文武両道の追求である。将来のリーダーを育成するためには忘れてはならないことであり、本物志向のたくましい人づくりには欠かせないことである。そこで各活動の一端を紹介。

## 1 部活動

本校の部活動加入率は85%で進学校としては極めて高い。本校生徒の質の高さを示している。それだけ学校が彼等にとって自己実現させるに値する場所ということである。今年全国大会出場を果たしたのは四つの部である。

### ○柔道部

個人戦(90キロ級)全道優勝

丸山哲嗣君、これは管内38年ぶりの快挙

### ○陸上部

走幅跳全道優勝

吉田祥美さん(自己新)

### ○水泳部

上原・大関・松尾・三上・鈴木君(400mリレー、1500m自由形、200mバタフライ)

### ○放送局

朗読部門・宇田結香さん、ラジオドキュメント部門・野村望帆さん



## 2 生徒会

### 〈第61回白楊祭〉

今年も7月16日から3日間、千代台陸上競技場でのパフォーミングから始まり後夜祭まで行われる。テーマは「Journey〜夢の旅路〜」



このように生徒達は様々な経験を積み、迷いながらもこの3年間、自立への道を進んでいます。これはいつの時代も同じです。たとえ校舎が変わっても中部で学んでいることこそが、本人の意識にかかわらず白楊魂が自然に育まれていきます。同じ魂を共有する115年に及ぶ伝統ある同窓生の皆様に先輩として温かく見守って頂ける学校であり続けられるようこれからも教職員一同頑張っていきますのでご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。  
同時に、白楊ヶ丘同窓会東京支部の今後のご発展を祈念いたしご挨拶とします。

# 第33回 親睦大会 報告



黒田校長先生

ひよんなことから、「きむら啓子ひとり劇場」のきむらさん出演のお願いができ、大まかな方向性がつかめ、同期のミーティングを重ねながら、役割分担についても細かなことを決めていきました。その間、何度集まって話し合った



安田支部長

平成21年の親睦大会は、昭和52年卒、第79期が幹事を担当しました。同期会さえも開いたことのない我が期ですので、一体どのような皆に声をかけようかと、たった4名で考えることから始まりました。「作戦会議」と称して、取りあえず一昨年の暮れに「同期会」なるものを行ってみると、10数名が集まってくれました。問題は、幹事の期が何かイベントをしなくてはいけないことでした。が、会場の霞山会館は、音量のある楽器演奏は下の階に響くのでNGということ、大変に制約された中でイベントを考えることが最重要課題になりました。

か忘れてしまったくらいです。今回、司会は、第79期・小西真由美が担当を致しました。開会の辞のあと、第52期以前の旧制中学校ご卒業の先輩達に登壇していただき、同窓会歌(旧制・函館中学校校歌)を出席者全員で斉唱し、会が華々しく始まりました。歌唱指導は第71期の佐藤元嗣氏、ピアノ伴奏は第78期の島津路郎氏です。続いて第67期・安田康次支部長より「新型インフルエンザの流行で心配をしていますが、多数ご参加いただきまして安心しました。第43期から第111期と幅広い年齢の参加は、当同窓会ならではのことでないでしょうか。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻をお願いしたいと思っております。」との挨拶がありました。

次に18名の来賓の方々の紹介があり、来賓を代表して、「函館中部高等学校校長の黒田信彦先生(73期)から「昨年は定時制の85周年記念行事がありましたので、こちらには参加できませんでした。今日は



神山氏による乾杯

楽しみにして参りました。立派な会場で同窓会ができることを大変に嬉しく思っております。中部高校は歴史のある学校ですので、数ある函館の私立校に生徒が流れないようにトップの座を維持してまいらなければいけません。皆様の応援をどうぞ、宜しくお願い致します。」とのお話がありました。

また、はるばると函館よりご出席いただいた函館市経済部長の備前悟氏より「栄えある中部高等学校の東京支部同窓会にお招きいただき、ありがとうございます。今年、函館市は、開港150年目の節目の年を迎えました。また、ブランド総合研究所の調査では、魅力ある街ナンバーワンの地位に輝きました。私自身もまた、函館の魅力を再認識しました。海と山に囲まれ、夏涼しく冬雪少なく、食べ物と美味で生活力の整った、コンパクトな30万都市です。」と函館を宣伝する言葉をいただき、また企業誘致のお話もありました。続いて、第43期の神山茂郎氏の



「どじょうの祝言」

音頭で乾杯をし、しばらくの間にぎやかな歓談に入りました。

さて、いよいよアトラクションの始まりです。函館市が全勢力を傾けて制作した「イカール星人」のビデオは3分間でしたが、イカばかり食べる函館市民に怒りを覚えたイカール星人が宇宙より飛来して函館市を襲い、市役所を始め至るところへの攻撃を開始します。すると五稜郭タワーがタワーロボになって飛び立ち、果敢にもイカール星人と戦う…といった内容で、会場の照明を暗くして、スクリーンに注目していただきました。照明を消したまま司会が「きむら啓子ひとり劇場」の始まりを伝えます。若手のタップダンスを取り入れた「送りチョウウチン」、会場の虎ノ門に近い江戸城お堀端の妖怪話の「ドンドン河童」、そして、おめでたい「どじょうの祝言」のファイナーレでは、会場の皆様にも大勢参加していただき、金屏風の前にぎやかに踊りました。次に恒例の新入会員紹介があり



新入会員（111期）紹介

ました。この中には我々第79期のお嬢さんも2人いて、改めて月日の経つ早さに驚かされてしまいました。また、遠方にいる同期の姿がよみがえりました。

宴も終わりを迎え、我々第79期が壇上に並びました。斉藤康がマイクを持ち「今日、会場においてになった皆様方へのお礼に1曲歌わせていただきます。これから歌いますのは、作曲家をしている同期の水島康宏が、歌手の高橋真梨子さんに提供した曲で、70万枚のヒットをさせました『ごめんね』という歌です。今回、ちよつとだけ皆で練習をいたしました。今日、参加した同期の心の中には、この歌が大変な想い出となることでしょう。カラオケなどで歌う度（1回歌うと印税が水島に入るそうなので、皆様ご協力を）、きつと今日のことを想い出すでしょう。また、我々は、今後ともこの『ごめんね』を大切に歌い続けたいものだと思います。」と、歌の紹介をしました。



79期による「ごめんね」の歌唱

第78期の嶋津路郎氏の伴奏で、心を込めて歌いました。我々第79期も心を一つに合わせ、また歌が会場全体を一つにした瞬間でした。続いて、翌年の幹事期である第80期6名が登壇し、輪島薫氏から「このような素敵な会をありがとうございます。素晴らしい企画力・進行力に感銘しております。我々も第79期に負けないよう新しい企画で同窓会を開催したいと思えます。」との頼もしいご挨拶をいただきました。

最後は、全員で校歌斉唱です。歌唱指導は第71期の佐藤元嗣氏、伴奏は第78期の島津路郎氏です。親睦大会の中締めは、昨年同様、第97期の松川文弥氏にお願いし「僕らの若い期の参加も増えています。世の中は変わっておりますが、我が白楊ヶ丘同窓会の校歌の精神、また熱い思いを伝えていきたいと思えます。」と元気がとなりました。受付では、第92期の服部州恵氏

の絵の展示を致しました。また、第78期の島津路郎氏の音楽指導には、第79期一同、心より感謝いたしております。ありがとうございました。

最後になりましたが、函館市役所様から、函館ワインのご提供を、第63期の土橋道子氏と第64期の徳田定勝氏からは、たくさんの飲み物のご寄付をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

〔第79期 西田勢津子記〕



松川氏の三本締め

## 図書紹介(同窓生の著書)

お知らせ  
コーナー

第48期(昭和20年卒・故人)

山形道文 著

「われ判事の職にあり／山口良忠」

肥前佐賀文庫(出門堂)

弁護士であった亡き著者が各地を徹底取材して編んだ伝説の鎮魂歌。図版などを増補して待望の復刊!!(ヤミ米を拒絶し、死を賭して自らの信念に殉じた裁判官の生涯)

第69期(昭和42年卒)

竹本義明(名古屋芸術大学学長) 著

「実践アートマネジメント/地域公共ホールの活性化」

レイライン 2,000円

アートマネジメントの実践者が記す、熱意に満ちた日々の記録と理念。日本アートマネジメント学会会長、利光功氏推薦!《究極のアートマネジメント》とは、芸術が経営的に成立するよう全力を挙げてマネジメントを行うことであろう。～本書より抜粋～

\*このコーナーにご紹介したい情報(著作・創作活動・音楽活動・PRなど)を、自薦・他薦共にお寄せ下さい。ホームページへの掲載依頼も、本紙欄外のアドレス宛にご連絡ください。

# 第33回・東京支部 親睦大会出席者一覧

(平成21年10月24日 霞山会館)

来賓

北海道函館中部高等学校 校長 黒田信彦 (73期)  
 白楊ヶ丘同窓会 会長 三ッ谷富夫 (58期)  
 白楊ヶ丘同窓会 幹事長 鎌田佳勝 (65期)  
 函館市経済部 部長 備前悟  
 函館市経済部工業振興課 課長 田畑聡文  
 白楊ヶ丘同窓会関西支部 事務局 山川泰宏 (59期)  
 白楊ヶ丘同窓会札幌支部 幹事長 酒井純 (75期)  
 函館西高つつじヶ丘同窓会東京支部 会長 新谷義克  
 函館西高つつじヶ丘同窓会東京支部 事務局 高村亨  
 函館東高等学校関東青雲同窓会 会長 新山春一  
 函館東高等学校関東青雲同窓会 幹事長 檜森兄元  
 函館東高等学校関東青雲同窓会 会計幹事 上口孝之  
 東京函商同窓会 会長 汐谷進  
 東京函商同窓会 幹事長 道下佳拓  
 函館工業高等学校同窓会関東支部 事務局長 本間和吉  
 遺愛同窓会東京支部 支部長 島田瑞子  
 函館白百合学園同窓会東京支部 田代沙智子  
 函館大谷高校東京同窓会 副会長 須藤珠実

昭和16年卒 (43期) 神山茂郎  
 昭和18年卒 (45期) 小笠原敏雄・田沼修二・本間秀夫  
 昭和20年卒 (47期) 堀田善和  
 昭和23・24年卒 (51期) 奥山和宏・小野寺吉彦・近藤充夫・三國比左男  
 昭和25年卒 (52期) 井上稔・小泉龍彦・長島康・福津達男  
 昭和27年卒 (54期) 沢口幹男  
 昭和29年卒 (56期) 加藤正秋・塚本弘子・藤本一郎  
 昭和30年卒 (57期) 川口(大島)千代・小竹(滝田)喜子・隈井(新藤)薫・吉田精吾・鶴島克孝  
 昭和31年卒 (58期) 五十嵐克至・小川英夫・佐藤健・谷口滋穂・坪田憲俊・永野巖・早川(岡)光江・広田洋吉・藤原正樹  
 昭和32年卒 (59期) 笠原静男  
 昭和33年卒 (60期) 上平慶一・北原耕太郎・内藤尚・松村文俊・宮川(成田)満子・紅谷弘一  
 昭和34年卒 (61期) 加藤紀興・金子公彦・菊池紀邦・佐々木住明・長尾邦充・畑中万弘・橋本正夫・松本允  
 昭和35年卒 (62期) 市丸大平・玉川修  
 昭和36年卒 (63期) 中村崇・依田洋次・石崎篤子・土橋(山本)道子・福本(浅間)元子  
 昭和37年卒 (64期) 大原淳一・徳田定勝・佐々木(中村)京子・田中(浅野)公子・鈴木三則  
 昭和38年卒 (65期) 荒井正治・小嶋正歳・千葉恵寿・山初省吾  
 昭和39年卒 (66期) 吉井直樹  
 昭和40年卒 (67期) 加賀幸彦・相馬研二・中川竹見・花海吉夫・松田幹夫・宮川憲司・安田康次・稲越(逢見)淳子・井上保彦  
 昭和41年卒 (68期) 及能誠一・木戸正文・白崎淳一郎・山本晴義・横田依早弥・大河原(小沢)綾子

昭和42年卒 (69期) 梅田五郎・奥野政博・高木隆・梅田(上野)やよい  
 昭和43年卒 (70期) 石黒秀喜・高橋裕司  
 昭和44年卒 (71期) 加納元雄・佐藤元嗣  
 昭和45年卒 (72期) 池田英一・岡村章・加藤哲夫・小林繁治・笹川浩史・丹羽修・村上誠一・村田秀樹・渡部敏雄・佐野(小岡)香苗・菊池佳裕  
 昭和46年卒 (73期) 小林隆麿・田澤博実・戸来伸一・橋本昌純・山田朗・高田恵子・森山耐介  
 昭和48年卒 (75期) 村上俊彦・吉川忠幸  
 昭和49年卒 (76期) 下國直人・白川正広・曾我正彦・谷内(若狭)裕子  
 昭和50年卒 (77期) 相澤有一・瀬戸隆・吉崎収・若生直  
 昭和51年卒 (78期) 垣坂清・島津路郎・下田真靖・高橋邦明・長澤一徳・松田司・岡部(三浦)あさ子・柴山(相馬)智恵子・山内(藤島)清美・吉崎(丸山)加代子  
 昭和52年卒 (79期) 阿相文敏・阿部洋一・小倉淳・斎藤(大田)泰・鹿内伸悦・杉目小太郎・高橋政章・萩原伸彦・樋口澄則・山本恭之・尾上(石塚)教代・川井(林)双葉・金城(高岸)玲子・小西(間)真由美・小林(小林)聖子・斎藤(當作)裕美・櫻井(近藤)さゆき・関根(加藤)修子・高橋(三浦)直子・田中(佐藤)雅子・谷口(大島)あき子・西田(畑野)勢津子・福島(若生)陽子・光安(川村)郁子・本塚(武藤)敦子・渡部(坂田)尚子・高橋(小坂)和世  
 昭和53年卒 (80期) 齊藤聡・清水賢治・田村幸悦・古里正・輪嶋薫・渡部一己  
 昭和55年卒 (82期) 清水真  
 昭和56年卒 (83期) 西條政幸・嶋田典子・田口(新沼)志保  
 平成2年卒 (92期) 服部(西澤)州恵  
 平成6年卒 (96期) 池田周作・長谷川賢幸・今田光信  
 平成7年卒 (97期) 岩澤総一郎・大川憲太郎・佐々木誠・坂爪洋・櫻田和彦・藤原義紀・松川文弥・藤原(蝶野)倫子・山谷(田澤)琴美  
 平成8年卒 (98期) 高波恵美  
 平成13年卒 (103期) 田上温子・繁里わか奈  
 平成15年卒 (105期) 小林秀輝・林利充・坂本有香  
 平成18年卒 (108期) 井村希・山本晃平・田上遊子  
 平成19年卒 (109期) 岩戸景太・遠藤康平・佐々木秀・島津はるか・松林亮祐・橋本真樹・藤村完・山田拓朗  
 平成20年卒 (110期) 佐藤一樹・成田佳月・能登川亜美  
 平成21年卒 (111期) 石橋拓也・岩島佑希・大山未方・熊谷匡紘・佐々木梢・佐藤由菜・鈴木裕太・染木章江・奈良ほのか・古川成由・前田美樹恵

出席総数:来賓18名を含め223名(敬称略)



三ツ谷同窓会長と58期



旧制中学生と共に函中校歌(同窓会歌)を斉唱



黒田校長と73期



62期～64期



43期～47期



77期～78期



52期～57期



100期～109期



90期～99期



担当期・79期



最後に全員で校歌斉唱



第34回大会担当・80期の挨拶

# 白楊魂集結!!

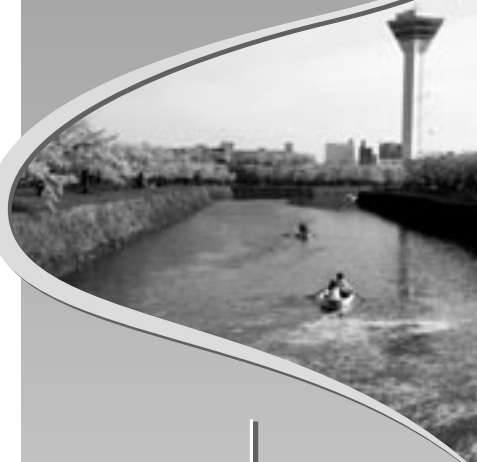
# 随想

## わが故郷

6年間の思い出〜最後の旧制函中生

52期(昭和25年卒)

小泉 龍彦



### —函館・街・人・思い出—

なった。その上、男女共学についても、我々の学年は「函中に女子学生はいらない」「名門函中は断固共学反対」を打ち出し、学区制のみが施行され、共学は昭和25年まで、2年遅れた。幸い、女子トイレがない等の諸事情が、その理由ではあった。今思うに「7歳にして席を同じうせず」の教育であったが、華やかな女子学生と一緒に学んでみたかった。というのが本音。人生が変わったのではないだろうか？

とにかくそういう訳で、昭和23年に新制高校となって、文科と理科に分けられ、1、3、5組が理科、2、4組が文科という編成にされた。そしてすぐに、軟派の文科、硬派の理科と噂された。学科も、公民↓社会、東洋史・西洋史↓世界史Ⅰ・Ⅱ、代数・幾何↓解析Ⅰ・Ⅱ、物理・

化学に地学が加わったり、芸能科が選択制になったり；等々いろいろ変わった。そして、中学2年3年(昭和20・21)時の、墨で消された教科書は姿を消し、粗末な紙質ながらも、新教科書が使用される時代を迎えた。

脱状態に陥った3、4年生の頃。よくぞ頑張ったものだ。「斃而不己」(たおれてやまず)の根性そのものだったのだろう。

更に運動部は、籠球部(バスケット)が大活躍で、全国大会へ歩を進め、闘球部(ラグビー)や陸上部は道大会と、高山ドンカン、春木、岩沢先生も颯爽、澁刺としていた。ただ花形だった野球部が函館工業高校にスターの座を奪われたのは寂しかった。強打者瀧川君の大粒の涙が印象的だった。

それに比べて地味ながら、文化活動分野で存在感があったのが、理化研究部。瀬田松君のリーダーで大活躍、電車の安藤哲君、生物は首席の菊池昶史君が光り輝いて、文化祭を盛り上げ、対抗して歴史研究部も名乗りを上げていた。異色のところ

函中120年の校史の中で、6年間学んだのは、昭和18年入学の51期と、昭和19年入学の52期の2学年よりないだろう。いわゆる旧制中学から新制高校へ、六・三・三制の実施に伴う移行期の副産物だった。

昭和23年春、入学時から「5年の襟章5A〜Eを付けたら恐いのナシ」だと言われ、待ちに待っていた。それ程、在学中は先生より先輩が恐かったし、厳しかった。

それが新制度で高校となり、2A〜Eのバッジとなってしまう。庁立函館中学校から道立函館高等学校になった。内地(本州・四国・九州)は前年新制度に移行したが、北海道は1年遅れと

旧制4年終了で旧制二高へ進学した首席の佐藤信君や、特待生の中村勝哉君が在籍していたら、もっと素晴らしい成績だったろうと思う。勤労働員に駆り出されればなしの1、2年生時代。虚



函館市立函館高等学校

かった。楽しみは、春日浩洞先生の、庁立高女との作品展示会で、ウキウキして出掛けて行ったものだった。

矢継早の戦後の時代の流れだった。2年半に渡る極東軍事裁判も終わり、7名の絞首刑には「戦争は勝たなければ残るは残酷さだけだな」と、痛感させられた。明治憲法から新憲法へと変わり、施行されたのは昭和22年5月3日だった。それでも下界では、下山事件、三鷹事件、松川事件と、生臭く、殺伐とした事件ばかり多かった。一歩後退二歩前進という有様の社会情勢であった。そして数年後の日米安全保障条約締結への道を進んでいた。

昭和25年3月3日の卒業式は曇りだった。最後の教室で、高嶋ボンズ先生は「今節、隣り、前後を良く見ておきなさい。この教室で学んだ学友です。でも悲しいかな、今日を過ぎると、この面々は二度と全員で顔を合わせることは出来ないでしょう。それがこれからの世界、世の中です。派手でも地味でも、俺の一生は良かったなあ、と、最期に締めくくれるよう努力しなさい。」と結んでくれた。正に傘寿の52期、一年多く学んだ分を誇りに思うよう歩み続けます。函中に学んだ誇りを背にして—。

### 瀬田松吉昭君を偲ぶ会

52期（昭和25年卒）  
玄羊会 長島 康

去る7月23日（金）瀬田松君を

偲ぶ会が納涼会に併わせ、「がんこ銀座四丁目店」で執り行われた。この場所は瀬田松君が生前よく友人と会食された思い出の場所だけに意義深いものがあつた。参加者は札幌支部を代表して来られた渡部君ほか特別参加者2名を加えた16名だった。冒頭司会から瀬田松君が4月8日臍臓ガンで逝去されましたので本日会員の皆様と共に在りし日の瀬田松君のご遺徳を偲びたい旨の挨拶があり、最初に4月13日の告別式でご霊前に捧げられた小泉龍彦君の弔詞を奉読して頂いた。戦中、戦後の苦しい中学・高校時代、努力と英知で乗り切った事や社会人となってからの活躍や家族に対する愛情など続々語られ、会場もしんみりした雰囲気であった。

次いで全員で御霊に祈りを込めた黙祷をした後、理化研と一緒に活躍された菊池昶史君から、彼が社会人になってから科学雑誌「ニユートン」を座右において情熱を燃やしていたことが披露され、その後、献杯の音頭をとって頂いた。そして、若干お互いに瀬田松君を偲ぶ会話が交わされた後、札幌

支部を代表して渡部君から来札時の活躍ぶりなど紹介され、次いで東京を代表して井上稔君が病床にあつた瀬田松君をメールの交信により励まし、又ゴルフの腕を競いあつた仲であることを話され、今は亡き彼への淋しさをにじませた。そのあとほぼ一人ずつから一言の偲ぶ言葉を頂いたが、様に「本来ならこの場に居るべき瀬田松君が居ないのが不思議でならない、淋しい」のひとことに尽きた。

最後に加藤和行君が「永らく東京玄羊会の幹事役を担当し、経理をやつて貰つたのは、正に適任で、あれ程几帳面で正確に処理できる男はいない。惜しい人材を失つた」と締め括つた。一緒に幹事役と引き受けてきた私としては、御霊安かれと祈るばかりである。

瀬田さん さようなら、瀬田松君安らかに。 全員合掌



## 姉妹都市「ハリファクス」を訪ねて

99期（平成9年卒）朝緑 高太 記

函館市は4都市【ハリファクス（カナダ）・ウラジオストク、ユジノサハリンス（ロシア）・レイク マコーリー（オーストラリア）】と姉妹都市提携をしています。中でもハリファクスには五稜郭に似た星形城郭のハリファクス砦があり、世界星形城郭サミットを共催などもしています。

バンクーバーオリンピックを半年後に控えた昨年の夏に、私は義理の父母と会うため、久しぶりにハリファクスを訪れました。

ハリファクスは、函館とほぼ同緯度で海岸に位置するため、夏でもカラリとして気持ちよく、街並みもハリファクス砦を中心に、オフィスビルや住宅、大学、スポーツ施設などが歩いて回れる範囲にあり、生活しやすい街だと思えます。お薦めは、市郊外の手をばさんだ高

台から眺める景色で、紅にそまる街並みはとてもきれいでした。

そんな素敵な街にも、1917年には軍用火薬を積んだ貨物船の衝突による大爆発で、市の大半が廃墟になるという悲惨な事故もあつたそうです。そこから立ち直るため、市民が手を取り合い、街を再建していったそうです。函館も過去には大火や戦争で大変な時期がありましたが、同じく協力しあい復興していきました。

ハリファクスは、函館と雰囲気似ているのかもしれませんが、不思議とこの遠く離れた街で、生まれ育つた函館をもう一度見つめ直してみようと気持ちになりました。

是非、皆さんも機会がありましたらハリファクスへ足を運んでみてください。函館を思うきっかけになるかも知れません。



【ハリファクスの概要】  
●ノバスコシア州の州都  
●人口約38万人  
●北緯44°39' 西経63°36'  
（カナダ東部大西洋岸）  
●日本との時差は13時間



# 同期会だより

## 第45期翠楊会 田沼修二記

昭和18年に函中を卒業した我ら230余名は翠楊会を作り、函館・札幌・東京で例会を続けている。今年も6月21日に東京支部の総会を開き、13名の会員と函館から縁筈幹事長も加わって歓談した。全員が超高齢の85歳を迎え、鬼籍に入ったり療養中の会員も増え、例会を止めて近況報告を交換する案も出されたが、東京支部は継続の要望が多く例年通りの顔振れが集まった。流石に酒量は激減したが、楽しかった中学時代の思い出を語り、近況報告の中で今なお冬山のスキーに挑むもの、ヨーロッパをドライブで駆け抜けた超人的な友人などの健在振りに驚くばかりであった。函館や札幌の同期生と顔を合わせる9月の函館の総会に再会を約して散会した。

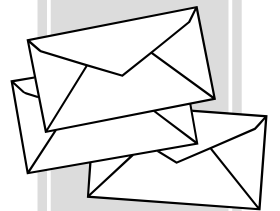
参加者は54名に、代表幹事として玄羊会に溢れる情熱で尽力を盡してくれた故田中哲夫君、永井賢礼君兩名の御夫人を御招待して、夕方5時から9時迄よくもしゃべり通したものです。それでも話し

足りない何組かは夜の巷に出かけました。

我々は昭和19年、戦争真只中入学、物が無い時皆で分ち合いながら、学徒動員で援農や塹壕掘りに従事、敗戦の屈辱を味わい、墨で塗り潰した教科書で学んだ動乱期の6年間を過ごしただけに、鬼籍に入った120名の友の姿は脳裡から離れる事はなく、心のどこかにまだ生きています。いずれ皆旅立つ日が来るのだが、それ迄しっかりと生きて、喜びの日を噛み締めなければなりません。

それにしても月日の過ぎ去るのは早いものです。中学一年の時「少年老い易く学成り難し一寸の光陰軽んずべからず」と安保先生に教わった漢文を今更ながら思い出しています。

元氣な札幌組は「まだ平均寿命に達したばかりなのだ。米寿の集いを皆で祝いたい」と発言。東京組は2年後、盤寿の会を行う事を宣言しました。盤寿とは、将棋盤に81の升目があるので満81歳の祝いで、一般的にはなく広辞苑を引いても出ていません。



我々は二上君（元将棋連盟会長）の存在を誇りに生きる支えにできただけに、是非とも実現したい。卒業30周年から全国大会をやり、その都度記念誌を制作して最後になった卒業50周年記念誌のタイトルは「目指せ盤寿・変らぬ友情」です。

只将棋は勝負の世界なので、乾杯は完敗に繋がるので何か別なかけ声を考えなければと思っている所です。

## 第57期 越後明記

地元で開港150年記念同期会（プロローグ）

函館開港150年記念同期会を平成21年10月6日に湯の川・「花びしホテル」で開催した。参加者は57期にちなんだのか、なぜかジャスト57名で何とも幸先のよいスタートとなった。

主宴に先立ち、同期の郷土歴史研究家・木下寿美夫君より最近発売された「函館いるはかるた」の紹介と箱館の歴史にまつわる解説があり、我が故郷の歴史を改めて認識。8月6日付函館新聞での紹

## 第52期玄羊会 福津達男記

傘寿の集い（少年老い易）

6月26日（土）卒業60周年を傘寿の祝賀会と兼ねて函館国際ホテルで開催しました。



卒業60周年・傘寿の集い

## 第64期同窓会 東京支部 昭和37年卒業



株式会社宮川憲司建築事務所  
Environmental Planning & Design

桜美林大学 基盤教育センター

<http://www.k-miyakawa-arch.co.jp>

## 午未の会

昭和36年卒業・63期

卒業50周年記念全国大会

平成23年7月31日（日曜日）

巴里からのサンセットクルージングと園遊山から夜景を見ながらのパーティを予定しています。東京から遠路リファーを組んで大勢で参加しましょう。成谷藤さんの舞踊会もありますよ。



介タイトルは「遊んで函館の「いるは」分かる。」

読み札の一例を紹介すると、

は：薄命の啄木ゆかりの立待岬  
こ：河野政通(まさゆく)箱館開祖  
た：弾の跡今でも残る亀田のお宮  
て：敵味方治療行う函館病院  
(クライマックス)

さて、宴たけなわの頃、それまで降りていた正面舞台の緞帳が突如上がり、なんと地元ジャズバンド「VEST」総出演による名曲の数々のライブ演奏へ。

函館での同期会の長い歴史の中でも今回の企画は秀逸無比で、これには参加者一同「なあくんも云うことねえべさ」と大満足。演奏曲によってはダンスペアも登場し、楽しそうな場面も随所に。最後は同バンドの伴奏付きで校歌を

高らかに斉唱して一次会はお開きに。席を移しての二次会の終幕には「チヨチヨンがチヨン」拍子も懐かしい「港おどり」で宴席を周回するという、これまた地元幹事団の粋な演出もあった。

(エピソード)

前日の市内観光オプションに続き、翌日は本物のゴルフ組とパークゴルフ組に別れ、それぞれ好天に恵まれた楽しい一日を過ごすことができた。

**第63期 年末の会 依田洋次記**

**関西旅行**

63期会は、東京で毎年1回同期会を開催していて、今年3月に27回目の会を上野の精養軒で終えたところ。関西にも同期の人がいて、関西同期会を開催しようという機運が盛り上がり、昭和61年11月に京都で30人くらいの同期生が集まりました。それから毎年関西で同期会を行なおうということになり、関西地方にいる人たちの近くを旅行しながら旧交を温めようということになりました。たまたま私の専門が建築であることから、建物を見ることから始めることになり、現在まで毎年続いています。訪れたところを思いつづままにあげると、寺院では東大寺、石川那谷寺、石山寺、湖東三山、三井寺、京都では紅葉の東福寺、

南禅寺、永観堂、天竜寺、神護寺、醍醐寺、常寂光寺、真如堂、高台寺等。神社では伊勢神宮、日吉大社、厳島神社、大崎八幡宮、金沢尾山神社等。城郭では、姫路城、彦根城、松山城等。街並みでは、神戸北野界隈、飛騨高山、木曾路の妻籠・馬籠、倉敷、豊橋足助、萩・津和野等。日本3景の宮島、天橋立、松島。温泉では、有馬、金沢湯湧、諏訪、嵐山、城崎、和倉、秋保、道後等。テーマパークでは、佐世保ハウステンボス、志摩スベイン村、明治村等です。今年も25回目で、鳥取砂丘、出雲大社、足立美術館を予定しています。当初は15名前後参加していたのですが、最近では7〜8名くらい参加しています。このように長い間続いているのは、何といっても皆さんの知的好奇心が高いこと

とよることや、特に強制はせず自由に参加していることにもよると思います。一度しか行っていない人もいるし、ほとんど毎年参加している人もいます。一度行ったことがある場所でも同期生が共しきは何ものにも替えがたいものがあります。またこの旅行を通じて関西から九州まで、函中の同期生がたくさんいることが分かり、旧交を温めることができたのが最も良かったことです。各地方から三々五々集まり、一泊の後また来年の再会を約束して別れて行くというのも良いものです。同期の皆さんの希望がある限り、この旅行を続けたいと考えています。

**第64期 田中公子記**

バスで巡るさわやか富士山周遊・河口湖での和やか同期会

21年度の64期同期会は河口湖で一泊のバスツアー。48名参加で開催されました。好天に恵まれた11月7日、集合場所の東京駅・羽田空港を経由して出発。バスツアーには現地集合の7名を除き41名(ご家族5名を含む)の参加。さっそうくバスの中でプレ同期会。バスの後ろはサロン席、メンバーが入れ代わり立ち代わり歓談。そのにぎやかなこと、笑顔が弾けました。冠雪の富士山はクッキリ。モミ



<p><b>株式会社イコー建設</b> 一級建築士事務所</p> <p>代表取締役 <b>佐藤 一廣</b> (69期)</p> <p>〒165-0033 東京都中野区若宮1-28-1 野方会館2F 電話: 03 (3223) 0168(代) FAX: 03 (3223) 0658 mail: k-sato@f-rn.co.jp</p>	<p><b>志丸会</b> 東京支部 第67期 昭和40年卒業</p> <p>一級建築士事務所 沖崎建築設計事務所 沖崎 剛 第69期</p> <p>〒182-0024 東京都調布市布田1-26-12-319 TEL: 042-488-3985 FAX: 042-488-3986 e-mail: okizaki.takeshi@nifty.com http://homepage3.nifty.com/okiz/</p> 
---	---



ジ、カエデ、カラマツが今が盛りと彩り鮮やかに歓迎。中でも富士山5合目では、真っ青な空と目の前に雪化粧した山頂、眼下に広がった雲海の先には南アルプス。圧巻でした。

同期会本番は、まず池田斉さんの挨拶「この会に参加した方は皆長生きするでしょう」に破顔一笑。柔道の佐藤宣踐さんの力強く、迫力ある「乾杯」で開宴。バスの中から和気あいあい。会場へ直行の7名もすぐ溶け込み、時間と共に気持ちは一段と若々しく、あの懐かしい高校時代へ確実にタイムスリップ。すっかり若返ったところで二次会はゆったりとしたラウンジ。語らいとカラオケの2時間も

瞬時に経過。締めは恒例、徳田定勝さんの「イヨマンテの夜」。残念だったのは曲を更に盛り上げるパーカッション担当の才門尚さんが居なかったことでした(21年12月11日逝去・合掌)。

会場直行の方と別れを惜しみが2日目スタート。あまりに暖かく湖面に霧発生、肝心の富士山が見えない。ところが湖畔を離れると目の前にドーンと富士山が。なんと心憎いばかりの演出に一同歓声。右に左に雄大な富士山を眺めながら箱根・芦ノ湖観光、大満足でした。寿命が3年延びるといいうゆで卵も食べ、サロン席では池田さんの問診・診察・触診による無料診察もありました。

心配していた渋滞もなんとか回避し、予定通り羽田空港經由東京駅に到着。ここで散会の予定でしたが、当日浅草泊まりの函館勢6名になんと10名同行。仲見世散策、歓談と午後8時過ぎまで余韻を楽しんだそうです。よほど別れがたかったのでしょうか。こうして一泊二日の同期会は無事幕を降りました。

最後にバスツアーを企画、実行するまで、約8カ月間の長きにわたりご尽力くださった函館の世話人、小林信さんと、東京の幹事・徳田さんに、この場を借りて感謝とねぎらいの言葉を贈ります。

「ありがとうございました」

等も加わり熱心・和やかな授業風景でした。

その後全員で記念撮影・定期総会・懇親会と進み、45年を越える歳月も忘れ、しばらくの間それぞれに懐かしい人々と懇親を深めました。

今回の同期会の特記事項として、①会則の変更があり、「母校の同窓会総会に出席する会員に三千円の補助金を支出(千円アップの改正)。東京等の支部にも適用される(新規適用の改正)」ことになりました。現在、東京支部同窓会への参加者が殆どいない66期が、この補助の改正規定により参加協力が進むとは考えにくいので

第66期 石塚晶子 記

同期会活動状況報告

「東京白楊だより」へ66期から同期会開催の初めての報告です。「平成22年度 第31回 函中66期同期会」が、5月22日(土) 18時から函館近郊の「鹿部ロイヤルホテル」で開催されました。

当日は、「中部高校」に集合し、15時にホテルの送迎バスで鹿部の会場へ向かいました。駒ヶ岳を見ながら、途中の大沼公園駅で、恩師の土井(南) 時久先生をお迎えし、1時間ほどで「鹿部ロイヤルホテル」に到着。乗用車やJRなどで到着していたメンバーと合流しました。

中部高校でのクラスは7組までありましたが、今回の参加者は、土井先生を含め、少しさみしいかなと感じる35名。男性23名・女性12名。地域別では、地元函館周辺18名、札幌周辺(苫小牧を含む)6名、東京周辺(仙台1名を含む)10名、名古屋1名となりました。(ちなみに東京で開催した昨年の参加者は49名、平成16年の40周年記念同期会は参加者62名です。)

ホテルに着いて、まず希望者には、土井先生の授業が行われました。7年ほど盛岡にいらした先生の講義は、「若手の県民性(戊辰戦争・箱館戦争を手がかりに)」の演題で40分ほど、生徒からの解説



四季を彩る至福の空間へ…

株式会社 計画機構一級建築士事務所  
■ 建築設計・コンサルティング

alpha Conservatories Ltd.  
■ ガーデンコンサルティング ■ 英国コンサバトリー設計、施工

株式会社 アルファコンサバトリーズ  
創業1874年 AMDEGAコンサバトリー輸入総代理店、B.D.G.コンサバトリー輸入代理店、建築設計・ガーデン設計

180-0022 東京都武蔵野市境1-22-9 ツインプレックスSA  
TEL.(0422)55-7940(代表) FAX.(0422)55-7960  
http://alpha-it.co.jp/ E-mail: info@alpha-it.co.jp

代表取締役 一級建築士 山田 朗 (73期)

KOA社屋 (長野県)

火ばしら会  
東京支部  
〈昭和42年卒業・69期〉

第71期東京地区同期会

すが、少しでもきつかけになればとの思いもあり、まだこれからの課題です。②懇親会開催の挨拶で、何時しか「…高齢者」の仲間入りをしたこともあり、健康に注意しようという話があった矢先に、倒れた方が出て一回びつくりしました。救急車で運ばれましたが、幸いその後大事にはいたらず回復されたようです。年齢・介護・疲れ等原因は色々でしょうが、自分たちが、高校生ではないという現実に戻され、考えさせられました。

66期同期会は、開催地を「札幌・函館・東京・函館」と交替しながら、当面の間毎年行っていく予定です。

**第67期 志丸会 松田幹夫 記**

**GW鎌倉散策**

写真は2008年4月29日、ゴールデンウィーク初日、志丸会有志で鎌倉を散策した時に鶴ヶ丘八幡宮の大イチョウの前で撮った、今では貴重な写真なのです。

なぜ2前の写真を載せたかというと、今年の3月このイチョウが倒れてしまったからです。

新聞の記事では「鶴岡八幡宮の大イチョウは、3月10日未明に雪まじりの強風で倒れてしまいました」と、伝えていきます。市消防本部によると、「当時の最大瞬間風速



は12m。これまでの台風でも枝折れしただけで大きな被害はなかった」のだそうです。

この大イチョウは800年余りの樹齢とみられ、1219年、鎌倉幕府の3代目将軍源実朝が八幡宮の参拝を終えたところ、暗殺者がこの木に隠れて暗殺したとの伝説から「隠れ銀杏」とも呼ばれ、歴史を見つめてきた神木でもあったようです。

この写真を撮った2年前に話を戻すと、「志丸会GW鎌倉散策」という企画は、鎌倉市内を一望でき、かつ自然も体感できる「天園ハイキングコース」という少しハードと思われる10kmを散策するというものでした。

「4月29日北鎌倉駅10時集合」の招集で男女11人がリュックを背

負って集合、日本最初の禅寺「建長寺」の境内を抜け、半僧坊(天狗の像)を眺めながら、長く続く石の階段を登っていきました。

昼頃に太平山の頂上に着き、昼食をとっていたところ、ここでハプニング発生！私が入ったまま串カツを食べたら、座って弁当を食べていた宮川君、安田君の頭をトンビがかすめ、私の串カツを見事に取っていったのです！一瞬の出来事で、何が起きたかしばらく分からなかったのですが、串カツから飛び散った衣を見て初めて、何が起きたか理解できました。「トンビに油揚げではなく串カツ盗まれた！」

昼食時にはワイン2本を数人で飲み、食後再びコースへ復帰。午前中元気がだった2、3人が千鳥足に、「あれほど飲むと言ったでしょう！」と女性陣から一喝！

新緑の頃で、緩やかな坂道を歩くときさわやかな風が気持ち良かったです。山を下ってスイセンのきれいな「花の寺」瑞泉寺、鎌倉で一番古い寺「石庭」もグーだった杉本寺、そして報国寺(竹寺とも呼ばれている)を拝観し、女性の希望で鎌倉情緒のある和風喫茶で、「あんみつ」「ころてん」「だんご」を食べ、その後鶴ヶ丘八幡宮へ行き、あの記念すべき写真を撮ったわけです。

この「天園ハイキングコース」は

それほど険しくはなく、混雑もなく、寺、庭などを周りながら10kmの道のりではありましたが楽しみながら歩くことが出来る、皆様方にもお勧めのハイキングコースです。

今では大イチョウがあった場所に、根の一部が植えられ新しい芽が出てきたとのことで、元のような大イチョウに育つまでは数百年かかるでしょう。このような写真を次に撮るチャンスは、800年後ということになりそうですが、果たしてそのときの日本はどのようなになっているでしょうか？タイムスリップして見てみたいものです。



イラスト：山本直樹

**第68期 よいよい会 木戸正文 記**

毎年2回(1月と6月)首都圏在住者を中心として同期会を開催している。1月例会(新年会)はフカヒレ、上海カニで元気を付け、頑張ろうと、横浜中華街で1月24日に開催した。久しぶりに見玉久美子さんも出席、1年間の健勝を祈念して祝杯を挙げた。

6月例会は毎年第2週の土曜日と決めているが、今回は都合により19日群馬県磯部温泉で開催し

**還る暦は…どの日の思い出につながりますか？**

- (誕生) 1951 サンフランシスコ講和条約調印
- (小学校入学) 1958 一万円札発行開始
- (中学校入学) 1964 東京オリンピック開催
- (函中入学) 1967 ミニの女王ツイッギー来日
- (函中卒業) 1970 大阪万博開催

**来年5月、72期生(S45卒)は再び青春と出会います。**

72期(S45卒) 東京支部  
**還暦祝賀同期会**  
**2011.5.21(土)**  
 都内にて開催決定!



た。ヨット世界一周を達成した目黒たみを君、今年も函館から佐々木まり子さんが参加してくれた。関東地方は梅雨入り宣言の直後でも九州地方は大雨であったが、幸いにも天候に恵まれた6月例会となった。

当日はゴルフ組が遅れた為、宴会を30分ほど繰り下げてスタート、元気で再会できたことを祝して乾杯。近況報告では「石川遼君のインタビューマナーは俺が指導した」という白崎君。海外生活が長かった目黒君からは「気の置けない仲間」との安堵感の話等々があった。カラオケを楽しんだ後、中締めとし、ワールドカップ・オランダ戦の応援へ、残念ながら敗れはしたが、同期の皆で観戦、応援できた。

る場を与えてくれたサッカーの神様に感謝をしつつ、大盛り上がりでの二次会となった。

翌日は宿のバスで日本三奇勝といわれる妙義山観光に出かけた。中之嶽神社では3名(大河原、目黒、木戸)が代表して、社殿までの急勾配の石段(約30度くらい)を登りみんなの健勝を祈願してきた。

報告は以上の通りだが、「気の置けない仲間たち」と旅が出来ることはこの上もなく楽しく嬉しいことである。

**第71期 加納元雄 記**

六十にして感う

今年の71期大会は、6月19日にお台場で開催したのだが、参加者は僅かに15人。2001年の40人をピークに、減少の一途をたどっている。

原因は幾つか考えられる。

まず、企画がマンネリ化していること。顔ぶれが固定化すると再会の喜びも新たな発見も少なくなり、それに代わる楽しみを、創り出せていない。

そして、私たち71期生は今年還暦を迎えるのだが、「ハッピー・リタイアメント、後は悠々自適で余生を楽しもう!」という実感が無い。いつまでも後進の活躍の邪魔をしてはいけないとは思っているが、現役を退いてハッピーな未



来図が描けるのか、確信が持てないのである。

同期生の中からは、「もう直ぐ皆時間が過ぎるから、集まりも良くなるよ。」とか、「来年は盛大に還暦祝いやるよ。」という声も聞こえる。果たしてそうなるのだろうか。今後どうするのが同期の皆にとつて楽しく印象に残る集まりになるのだろうか。

その昔横田先生から、「四十にして惑わず」と教わったが、出来ない教え子は、六十にして大いに惑っているところである。

**第72期 笹川浩史 記**

72期東京同期の交流は、ここ2年ほど大きな同期会こそ開催されていないが、随時且つ随所

で、ミニ同期会が数人から7、8人ほどの人数で開かれている。最近はやりの「分散型」の同期会とでもいうべきか。(単なる飲み会だという声もある。)とは言え、来年はいよいよ同期の大半が還暦を迎える年でもあり、満を持して大同期会を実施する計画である。

東京同期会の計画や函館在住組との連絡、東京同窓会での72期の活動などは、メンバー8名からなる東京幹事会(自称)を相談の場としている。今年も3月、5月に都内某所で会合を開き協議を行う傍ら、議論を酒のさかなにした楽しい集いを繰り広げている。

メンバーは、先ず代表的存在の渡部敏雄君。渡部総合法律事務所の主でもあるが、終身幹事長と言わなければならない存在だ。村田秀樹君。72期を代表して同窓会東京支部の理事を務める世話人役で、ボランティア精神に富むありがたい存在。村上誠一君は同期のリードオファマンの役割の行動派で、幹事会では数少ないアウトドア派でもある。彼のヨットでのミニ同期会も楽しい。

紅一点の佐野(小岡)香苗さん。女性の視点を加える貴重な存在。心優しい佳人だが、しばしば切れ味鋭い舌鋒で周りの男どもはタジタジ。小林繁治君は会計担当。函中では応援団員



**鎖集合**  
**80期末広会**  
 みんなが集まりや  
 酒もうまいぞ  
 あ〜こりゃこりゃ♪  
 (於:東京ガーデンパレス)

で、現在は某社で管理の中枢。バンカラと知性を兼ね備えた当会の要の一人である。

丹羽修君は写真家で貴重な芸術分野からのメンバー。普段は寡黙だが存在感大きく、同期会の写真撮影では当然ながらいつも世話になる。池田英一君は、最近幹事会に加わった貴重な人材。相模原在住だが都合の許す限り駆けつけている。今後の活躍に期待する所大。

本稿を担当した笹川は、東京単身赴任生活9年。当幹事会の一員を続ける見込みである。

東京72期の皆さん、このようなメンバーで来年は大同期会を企画しますので、どうぞ心して参加の準備を！

**第76期あす76会 曾我正彦記**

今夏、76期のイベントが函館で2週連続でありました。

7月17、19日、恒例の「あす76会」のゴルフでした。東京4人、札幌3人、地元函館から2人の参加です。初日は、上磯の高台のコースから函館山の新鮮な景色を見ながらの練習ラウンド、その夜の宴会でしこたま呑んだ後、2日目は3年前と同じ大沼のコースでした。スコアは、実力に比例し、酒量に反比例したことはいうまでもありません。



一方、翌週、7月25日、アメリカ在住の池田章子さんがご家族揃って帰省されるということで、函館で同期会となりました。函館はもちろん、札幌、旭川、松前、軽

井沢、弘前、東京から元クラスメンバーが駆けつけ、総勢26人+山本隆治先生が一堂に会しました。こんど70才を迎える山本先生が私よりも若くお見受けできるのは羨ましい限りです。今回は、札幌の池本の幹事で、自身の米国生活体験を踏まえて、「是非函館のゆるいやさしさを思い出して欲しい」というコンセプトで企画されました。三次会では池田章子さんの米国人の夫君、息子君も参加して下さり、アットホームな同期会となりました。

それにしても、女性が多い同期会は華やかでした。次回もそうありたいと思うのは私だけでしょうか。

**函館巴会ゴルフコンペ報告**

函館巴会ゴルフコンペは、西高、東高、そして中部の3校のゴルフ対抗戦です。毎年1回開催されており、今回は第14回、東高の幹事で、4月15日、千葉の「紫カントリークラブ あやめコース」で開催されました。

3校総勢37名、我が校からは13名の参加となりました。ルールは、新ベリア方式で、各校、女性1名を含む上位6名の順位番号のトータルポイントで競い合います。

当日はあいにくの雨模様でしたが、日頃、様々な条件下でプレーを楽しんでいるゴルファーにとってはこの程度の条件は織り込み済みであり、スコアにはあまり影響がなかったようです。さて、成績は・・・

東高（79点、3位）、西高（65点、2位）、中部高（48点、優勝）

みごと団体優勝を勝ち取りました。個人成績も、

☆優勝：安田康次氏（67期） ☆準優勝：佐藤禎子氏（72期） 女性優勝をはじめ、20位までに8名の方が入る健闘ぶりでした。

この会は、次回、西高の幹事で来年の春にまた開催予定です。腕に自信のある方も、また、上位の成績は常連の皆さんにおまかせして他校との交流第一でご参加される方も次回をお楽しみに。多くの皆さまのご参加を歓迎いたします！

(76期 白川正広)



**物故者（敬称略） 謹んでご冥福をお祈りいたします。**

- 松原 竹造（36期・昭9年卒） 平成21年7月5日逝去
- 秋濱 晴彦（36期・昭9年卒） 平成21年1月23日逝去
- 太田 冬雄（37期・昭10年卒） 平成19年4月18日逝去
- 亀井 浩（39期・昭12年卒） 平成20年11月1日逝去
- 田本 實（40期・昭13年卒） 平成20年2月19日逝去
- 従二 友彦（40期・昭13年卒） 平成20年9月9日逝去
- 村山 正郎（42期・昭15年卒） 平成20年6月4日逝去
- 篠田 作衛（48期・昭20年卒） 平成21年8月6日逝去
- 林 敦（49期・昭21年卒） 平成21年2月18日逝去
- 長尾 享司（51期・昭24年卒） 平成21年1月逝去
- 瀬田 松吉（52期・昭25年卒） 平成22年4月8日逝去
- 相馬 勇（53期・昭26年卒） 不明
- 千代 宣義（55期・昭28年卒） 平成21年2月22日逝去
- 岩松 悠子（67期・昭40年卒） 平成19年1月18日逝去

\*年会費払込票及び大会出欠葉書きにて、ご家族からお知らせのあった方です。

**平成☆白楊同窓会開催中!!**

アンオフィシャル同窓会として、年に2回ほど新宿などで暑気払いや忘新年会を開催しております。毎回20~30名ほどの参加者が世代を超えた自由な交流を展開しています！参加者は平成卒業生中心ですが、世代を問わず新しい同窓生のご参加を募集中です。次回予告：2011年1月に新年会を計画中です♪

下記ご連絡いただけましたら、同窓会を開催する際にアナウンスさせていただきます。  
**【お問い合わせ先】**  
 chubu@la-belle-equipe.jp  
 担当：105期小林秀輝

**紙面への広告募集!!**

「東京白楊だより」第34号・2011年8月発行予定  
 お問い合わせ・申し込みは [kanchu-tokyo@r6.dion.ne.jp](mailto:kanchu-tokyo@r6.dion.ne.jp)

**第76期東京地区同期会**

(昭和49年卒業)

「あす76会」ゴルフコンペ(1月、4月、7月、10月) 同期の皆さまのご参加をお待ちしています。

# 会員短信



平成21年9月以降  
の会費の振替用紙  
のメッセージから

## ● 椿田 和彦 (39期昭12年卒)

白楊だより、誠に有難うございました。同期の方々の御消息がよくわかり感謝に堪えません。親睦大会は老齢の為欠席させて頂きます。8月末、医業をやめました。

## ● 高梨 良雄 (39期昭12年卒)

皆様のご健康をお祈りしております。

## ● 宮本 寿一 (42期昭15年卒)

東京横浜の同期、安富氏からご案内賜りました。白楊だよりも有難く拝見しました。ご盛会を祈ります。

## ● 多和田昭二 (46期昭19年卒)

元気で居ります。今年(平成21年)6月27日に函館国際ホテルで卒業65周年記念会を開催し、40名の参加がありました。

## ● 渡辺 保二 (46期昭19年卒)

今年六月に函中卒業65周年の記念同期会を函館国際ホテルで行いました。84才の青年達?が40名も参加。老いを知らずますます意気軒昂です。

## ● 鈴木 廣 (51期昭23・24年卒)

政権交代がやっと生じましたが、世界経済が大変な状況で、この先どうなるのか。一寸先はヤミの中ですね。われわれは余命イクバクもないけれど、日本民族の将来が少しばかり気になりますね。「今朝もまた生きて目覚めて合掌す」の心境です。

## ● 長島 康 (52期昭25年卒)

若い世代の会員企画に大いに期待しております。いつもお世話様です。

## ● 宮村 慎司 (52期昭25年卒)

加齢に伴い動作も鈍くなりましたが、皆様の支えのおかげで感謝の毎日を過ごしております。有り難うござい

ました。

## ● 高野 保 (52期昭25年卒)

皆様にはいつもお世話になっております。現在も未だりハビりに専念。体の自由がままならず、前向きな生活が程遠い生活です。よろしくお願ひします。

## ● 折居 忠夫 (53期昭26年卒)

何とか元気にしております。

## ● 延原 昌樹 (53期昭26年卒)

東京支部の益々の発展を祈ります。

## ● 遠藤 宏 (54期昭27年卒)

今年の同期会(五楊会)は10月1日に函館で行いました。32名の出席でとても賑やかでした。ホテル恵風(ケイブ)で行いましたがとてもいい所ですよ。

## ● 栗崎 健一 (55期昭28年卒)

年に一度の「東京白楊だより」に懐かしい故郷の香りを嗅いでいます。自分史のヒトコマを想い起こさせてくれる貴重ですがでもあります。編集の皆様のご苦勞・努力に感謝しております。

## ● 千代 宣義 (55期昭28年卒)

内 淳子様(逝去)ご連絡有難うございました。誠に残念ですが、主人、宣義は、本年2月22日 肺炎により死去いたしました。生前何かとお世話になりましたこと、本人に代わりまして心からお礼申し上げます。同窓会の益々のご発展をお祈り致します。

## ● 浅岡 勤 (56期昭29年卒)

第33回親睦大会の前祭りのように、56期同期会(東京福祿会)の東京総会が10月22日に開かれます。後期高齢者寸前の同期生が続けて大会の方にも出席できるか懸念しています。

## ● 小竹 嘉子 (57期昭30年卒)

毎回楽しみにしております。相変わらず和服のリフォーム・ファッションショーを実施しております。どなたか交流しませんか?!

## ● 吉田 精吾 (57期昭30年卒)

今年の10月は地元函館で開港150周年記念同期会、東京では大学卒業50周年記念パーティ、それに白楊ヶ丘同窓会とイベントが相次ぎ、超多忙になりそうです。でも元氣のおかげで、皆に会えるのが楽しみです。

## ● 山本 哲也 (58期昭31年卒)

東京支部のお働き感謝いたしております。

## ● 伊藤 光司 (59期昭32年卒)

古稀も過ぎたことから、8月子供の近くに引越しました。病院、買物、公園等すべてが5分以内と年寄りには大変便利なところです。これで私の放浪生活も終わりです。

## ● 桶 直義 (59期昭32年卒)

「白楊だより」ありがとうございました。なつかしく拝見しております。私は昨年古希を契機に、それ迄の会社現役生活から「お暇乞い」させて貰い、今は同じ業界関係先で非常勤顧問をしておりますが、今しばし忙閑あいなかばとあったところです。今年も先約あり同窓会には残念ながら出席できませんが、盛会を願っております。

## ● 石川 セツ (59期昭32年卒)

相変わらず(財)日本野鳥の会に週3日勤め、ボランティアさんと一緒に自然保護関係の翻訳などをしております。

## ● 安沢 義彦 (59期昭32年卒)

元氣にのんびり過ごしています。皆さんによりしくお伝え下さい。

## ● 岩淵 安隆 (60期昭33年卒)

大先輩亀井勝一郎氏の名著「大和古寺風物誌」を読み直しました。卒業後の奈良での闘病3年間、自宅から東大寺境内裏、二月堂を経て春日大社までよく散歩していた遙か昔を思い出しました。文化祭での彼の記念講演を懐かしく思い出しています。

## ● 佐々木孝吉 (60期昭33年卒)

幹事の皆様ご苦勞様です。間もなく古希を迎えますが、まだ現役で働いています。ただ10数年前から趣味として陶芸

を楽しんでいます。

●岩崎 英子（60期昭33年卒）

ご苦労さまです。会報を楽しみにしております。

●菊池 紀邦（61期昭34年卒）

同郷（道産子）のきむら啓子様による「民話ひとり劇場」を楽しみにしております。

●宮島 暁美（62期昭35年卒）

「東京白楊だより」ありがとうございました。市丸さん、お役目ご苦労様です。10月24日（土）は予定が入っていて、参加出来ませんが、又の機会、よろしくお願ひします。

●浜岡興一郎（63期昭36年卒）

44年間のサラリーマン生活卒業。只今、さいたま市の小学校で理科支援員（5・6年生担当）として、週1日勤務しています。

●小見美佐子（63期昭36年卒）

仕事多忙で、ごぶさた致しております。皆様によりよくお伝え下さい。

●齊藤 俊子（64期昭37年卒）

「白楊だより」いつも楽しく拝読しております。幹事の皆様お世話様です。

●岩田 義正（65期昭38年卒）

昨年3月、16年振りで帰国し、満開の桜を見て感激しました。9月下旬には函館に5日程帰省して、すっかり変容した函中の校舎を見て驚きました。

●千葉 恵寿（65期昭38年卒）

難病の頸椎後縦靭帯骨化症で入院8ヶ月後の6月に退院しまして、現在リハビリ中ですが思うように行かず、早く簡単なスポーツが出来ればと頑張っております。

●上原 勝雄（66期昭39年卒）

犬との散歩を中心にのんびりと田舎暮らしを楽しんでいます。

●岩松 輝（67期昭40年卒）

妻悠子（67期）平成19年1月18日、病死しました。

●白崎淳一郎（68期昭41年卒）

一昨年から、中央労働災害防止協会、東京安全衛生教育センターで働いています。

●田中 恵子（68期昭41年卒）

「東京白楊だより」楽しく拝読させて頂きました。今年初めて出席した同期会の様子が『同期会だより』に何と2枚の写真入りで紹介されていて（68期・よいよい会）嬉しかったです。還暦を期に、同期会出席を決め、参加。新しい世界が開けました！同期会に出席した事で会報もより親しみを持って読めました。今後も参加します。

●奥野 政博（69期昭42年卒）

昨年11月末で現役引退し、現役時代に出来なかった温泉旅行、ドライブを楽しんでいます。今後共、よろしくお願ひ致します。

●園 蘭美（69期昭42年卒）

10、11月は函館で漬物作りです。母から教わったものや、自分でもいろんな種類の漬物作りに挑戦して楽しんでおります。

●茅原 伴啓（69期昭42年卒）

中国、重慶市に駐在して6年になります。

●近藤千寿子（69期昭42年卒）

白楊だより、いつもありがとうございます。毎回楽しみにしております。子供達が所帯を持ってホッとしたら、母の介護が始まり、函館・市川を行き来しております。母は函館で一人暮らしをしておりますので・・。

●岩切 省三（69期昭42年卒）

お世話の程感謝致します。皆様御健勝にお過ごし下さい。

●牧野 正寛（70期昭43年卒）

いつも会報を送っていたきありがとうございます。おかげ様で何とか本年4月定年退職を迎えることができました。これからは親睦会等にも顔を出せそうです。

●川村 哲雄（71期昭44年卒）

平成21年度の同期会を6月27日「舞浜ユーラシア」で開催しました。参加者は福岡から参加の善（佐野）順子さ

ん、仙台から参加の近藤丘君を含めて21名と、例年に比べて10名ほど少なかった。平成22年度には還暦を迎える我々71期は公的年金受給年齢が65才でもあり、まだまだ現役が多く、温泉場での同期会はまた早かったかとも思えました。が、少人数ゆえの打ち解けた楽しい宴でした。

●片岡 進（71期昭44年卒）

元気にやっています。孫が2人になりました。「子ども手当」のおかげで、子どもたちはさらに競って孫をつくりそうで、じいちゃんは財政ピンチです。頑張つて稼がなくてはなりません。

●殿谷 道子（71期昭44年卒）

中部高校時代も合唱部でしたが、今も歌にどっぷりの毎日を送っています。

●荒井 正博（71期昭44年卒）

お盆に父親の新盆のため、久々に帰りました。函館の駅前通りもすっかり人通りも少なく、店もシャッターが閉じられ、昔に比べ淋しくなりました。

●長野 英幸（72期昭45年卒）

いつもありがとうございます。当日10月10日は熊本出張の予定です。同窓の皆さまのご多幸を祈っています。

●岡村 章（72期昭45年卒）

定年まで2年となり、函館がますます懐かしくなってきました。

●花田 泰三（75期昭48年卒）

元気です。幹事の皆様、お疲れ様です。

●清野ひろし（75期昭48年卒）

幹事役、お疲れ様です。

●中澤 満（76期昭49年卒）

同期の結束の牽引役、白川正広君の活躍には素晴らしいものがあります。これからも応援します。

●田上 温子（103期平13年卒）

昨年初めて白楊ヶ丘同窓会に参加し、とても楽しかったです。今年も楽しみにしております。



## 平成22年度 評議員会報告

日時・平成22年4月26日(月)  
場所・インリジエントロビー・ルコ  
出席者・33名

会議に先立ち、安田支部  
長から「引き続き、各位の  
御支援により会を盛り上げ  
ていきたい」との御挨拶が  
あった。

以下の議案について審議  
し、全議案とも承認された。

(1)平成21年度事業報告  
親睦大会、会報、HP、渉  
外活動、同好会活動等。  
(2)平成21年度収支決算報告  
年会費納入(625名)、会員  
の皆様からのご寄付、運営費

の節減努力を行った結果、差  
引収支残(171,352円)。  
真船監事の監査報告を確認。  
(3)平成22年度事業計画案  
親睦大会、会報、HP、渉  
外活動、同好会活動等。  
今年度親睦大会は80期の企  
画運営で昨年度と場所を変  
え、「ホテル東京ガーデンパ  
レス」で10月30日(土)開  
催され、インターネットに  
よる母校との二元中継、恩  
師等のビデオレター等の企  
画の説明があった。

(4)平成21年度収支予算案  
昨年度の実績を参考に予算  
を編成。引き続き、会報に広  
告宣伝を載せ収支増を図る  
方策を予算化。これまで長  
年に亘り福津達男理事(第  
52期)が経営する会社を事  
務所として借用させていた  
だいてきたが昨年度末をも  
って移転を完了したことに  
伴う変化を予算に反映。  
(5)役員の変動の件  
現安田支部長の引き続きの

重任が諮られ、拍手をもつ  
て承諾された。  
松田・梅田・加納各氏に加  
え、新たに白川副支部長を  
選任。  
理事は、村田(72期)、曾  
我(76期)、高野(76期)  
各氏を新たに選任。村上氏  
(72期)は退任。  
永年監事を務められた小泉  
氏(52期)に代わり、会計  
担当理事の片瀬氏(80期)  
を新たに監事に選任。

評議員異動に関しては、船  
木氏(45期)、武田氏(48  
期)、瀬田松氏(52期)が  
ご逝去のため退任、また、  
永野氏(58期)、村上氏(72  
期)が退任。新たに小泉  
(52期)、広田(58期)、村田  
(72期)、高野(76期)の各  
氏の就任が報告された。

平成21年度収支実績および 平成22年度予算(単位:円)			
	21年度実績	22年度予算	
収入の部	年会費収入	1,875,000	2,100,000
	大会費収入	1,416,000	1,400,000
	会員からのご寄付	407,000	300,000
	会報広告収入	100,500	110,000
	その他	91	0
合計	3,803,091	3,910,000	
支出の部	大会関連費用	1,619,833	1,640,000
	会報関連費用	889,321	900,000
	諸会議費	153,240	230,000
	通信運搬費	182,917	220,000
	本部派遣費	189,260	220,000
	事務所諸費	300,000	80,000
	その他	397,168	420,000
	合計	3,731,739	3,710,000
差引収支残	71,352	200,000	
次期繰越剰余金	4,742,589	4,942,589	

## ポプラ会報告

第31回ポプラ会ゴルフコンペが、平成22年5月18日、GMG八王子ゴルフ場で開催されました。

当日は晴天に恵まれ、同窓会のコンペらしく、年齢層も幅広く、5組27名の皆さまにご参加いただきました。今回は、2人、4人と同期でご参加された皆さまをなるべく同じ組で回っていただく組み合わせとしました。同期あるいは近い年齢の方で競い合いプレーに集中できた組と、同期の会話に花を咲かせた組と様々でしたが、微妙にスコアに影響したようです。成績は次のとおりです。

優勝：63期 小林嘉則氏  
2位：64期 徳田定勝氏  
3位：67期 安田康次氏  
ベストスコア賞：61期 金子公彦氏

この会を今後も継続し発展させてほしいと、ご参加いただきました皆さんから多数のご意見をいただきました。ゴルフをやられる皆さんはまだまだ大勢おられるものと思います。同窓会のコンペですので「スコアは二の次」、ぜひ、軽い気持ちでご参加いただきたいと思います。今回、ご案内の連絡が届かなかった皆さまは、ぜひ、同窓会事務局までご連絡ください!

(76期 白川 正広 記)



## ご寄付御礼

昨年度は17名の方からご寄付を頂戴いたしました。  
お名前を掲載して御礼に代えさせていただきます。(敬称略)

昭和8年卒(35期) 加藤敏雄  
昭和9年卒(36期) 故松原竹造ご令室  
昭和12年卒(39期) 河村泰平 高梨良雄  
椿田和彦  
昭和15年卒(42期) 宮本寿一  
昭和16年卒(43期) 神山茂郎 続豊

昭和17年卒(44期) 勝浦寛  
昭和18年卒(45期) 川田陽吉 田中正昭  
中野忠彦 橋場邦武  
昭和19年卒(46期) 小泉道義 渡辺保二  
多和田昭二  
昭和20年卒(47期) 堀田善和

誠に残念なことに、年会費の納入者数が年々減少しており、当支部の財政は、未だにひ弱な状況です。本年も引き続き、会員の皆様からのご寄付を募っております。お志のある方は、ご協力をお願い申し上げます。

- 取扱金融機関/郵便局
- 口座番号/00190-1-124291
- 名称/白楊ヶ丘同窓会東京支部
- 振込用紙/郵便局備え付けの用紙をご利用ください。

# engage!!! 戦

東京マラソン2009を完歩！ 第78期 宮崎 恒春

「マラソンを冒険している！」「完走したら、銀座を逆立ちして歩いてやる！」——などなど、08年の忘年会の席で78期の同期に罵声を浴びせられたのを思い出します。



それもその筈で、夏にインターネットで申し込んだのは酒の勢い。「当選」の案内メールが届いた時に、すっかり申し込みしていたことを忘れていたのです。毎日走り、毎年申込んでは落選している、巷のジョガーを差し置いて、高校の時に10kmしか走っていない者が当たってしまったのです。それでも10月末から、週末に少しずつ練習を始め、11月末には歩くよりも僅かに速い程度になりましたが、その後は忘年会に新年会。加えて、2月になったら花粉症なので外で走るのはご法度。

不安いっぱいのまま、当日を迎えました。当日は雨に強風。靴に電子チップを付けて走るの、インターネットでゼッケン番号を入力すると私のラップがリアルタイムで判るのだそうで、同期に連絡をしておきました。不思議なことにランナーズハイで、15kmまで走れました。

しかし、目の前を走っているランナーが倒れて、泡を吹いているのを見て怖くなったのと、そろそろ体力の限界だろうとそこからは走ったり歩いたり。持参した携帯電話にきた励ましのメールには返信し、主催者が用意したバナナ、アンパンや飴などをすべての応援ポイントで口に入れました。最後尾から追いかけてきている収容バスとの勝負になりましたが、残り7kmの豊洲回りから再び走り出せて、タイムリミットの7時間前に何とかゴールゲートをくぐり抜けました。

完歩の要因は、同期の激励、沿道の見知らぬ多くの方の応援、年明けからの5kg減量、そして無理に走らなかったことかなと解析しています。いつか、同期が銀座を逆立ちして歩く時を楽しみにしています。皆様も是非一度チャレンジをお勧めします。何とかあります。

同期の宮崎君が現役一発合格したとき、私は三浪決定で羨ましい思いをしたわけですから、翌年念願の通知をもらったとき、「これは頑張らなきゃ！」と大いに盛り上がった次第です。東京マラソンまでにフルマラソンには6回参加しましたが、この大会はやはり特別。折角の「特別」ですから、目標を初の「4時間以内で歩かずゴール」と公言して準備しました。

始まりは8年前。定期健診で中性脂肪640を記録するまでスポーツとは無縁でした。医者から「このままだと死ぬよ」と脅かされ、命が惜しくてジョギングを始め、体重が減るに従って走るのが楽しくなり、楽しくもなりました。

さて、当日の2月28日はひどい雨と寒さの中、巨大大会故の会場都合でス

タートまで1時間以上も待機。太ももに故障を抱え、痛み止めを飲んでの不安な出走でした。

天気は悪くても道を埋めるランナーも沿道の応援もすごいのが東京マラソン。痛みと付き合いながら、高揚した気分で走っておりましたが、14キロ付近で腿の付け根がブチッ。「マズ！」棄権覚悟で最寄りの救護所に入る。トレーナー君が応急処置しながら「救護所をハシゴすればゴールできるかも」というのです。棄権はもったいないという、せこい気持ちで再開するがやはり痛い。痛いながらも何とか走れる。アドレナリンのなせる業か？その後救護所のお世話になることもなくゴールまで辿り着く。直前でもう一度ブチッ。4時間切りはできなかったが、歩かずゴールは達成。引換えに肉離

れ全治2ヶ月と高くついたかも。

今回78期の皆さんから励ましのメールをいただきました。次回も懲りずに申し込むつもりですが、78期3年連続参加に向け名乗りを上げる方がいることを期待しています。



東京マラソン2010は痛かった 第78期 松田 司

# 挑 Challenge

## ケープホーンへ向けて(小型ヨット「DHARMA」号による単独世界一周) 第68期 目黒 たみを

自分は、典型的な団塊世代として昭和22年7月に生を受けた。大学在学中(秋田大学鉱山学部修士課程卒)に始めたセーリングが、これまでの自分の生活に大きな影響を与えてきている。卒業後は石油開発会社に職を求め、在勤時には、技術者としてアラブ首長国連邦のアブダビを中心に、大小様々な油田の企画・開発・生産等のプロジェクトに関与してきた。30年余り勤めた会社を早期退職した時は57歳だった。一年間の準備期間を終え、母港の銚子マリナを出航したのは2005年6月12日午後2時。太平洋沿岸に張り出している前線を横切り、安定した南西風を捕まえるため濃霧の中を南へと向った。行き先は、ドレーク海峡を望む、南アメリカ最南端の孤島ケープホーン、ついでに世界一周。結果としてこの航海に要した期間は3年と10ヶ月。この間の総帆走距離は、赤道2周半に相当する52,600海里(所要帆走日数:524日)に及んだ。この航海を通じて17カ国と41の港やマリナに寄航し、極地圏を除く南・北太平洋、南・北大西洋そしてインド洋と5つの大洋を総て単独で渡りきる事が出来た。

使用艇は8.4Mの小型艇だが、設計者の林さんは、日本のアメリカ杯挑戦時のチーフデザイナーでクルージング艇の設計にも定評がある。建造は、学生時代のヨット部の先輩で愛知県刈谷市で三河

ヨット研究所を主宰する堀江一夫社長にお願いした。艇名は、大波や強風に倒されても直ぐに起き上がるセーリングボートのイメージを七転八起のダルマにたとえ、海外でも通用するように「DHARMA」とした。長期航海に耐えるため関係者とブレインストーミングを繰り返しながら、備品の選定と取り付けを行い、出航前年の12月から3月にかけての厳冬期に単独で沖繩へのテスト航海をした。それでも直接ケープホーンへ向う自信は無かった。そのため、太平洋を横断しカナダのビクトリア、ついでハワイ、フランス領のボラボラやライアテア、トンガ王国等を経由してニュージーランドに到着。

ここに10ヶ月滞在し、それまでの航海の蓄積を基に、最終準備を行い、ケープ・ホーンに向ったのは2006年11月2日であった。途中巨大な鯨に激突したり、数度の大時化に見舞われながらもケープホーン沖(ドレーク海峡)を通過し、ビーグル水道の中程に位置する、世界最南端の町プエルト・ウイリアムス(チリ領)に入港したのは60日後の12月31日(日本時間1月1日)であった。世界中から集まった大型ヨットが停泊しており、日の丸を揚げた「DHARMA」が単独で無事辿り着いたことを驚きとともに暖かく迎えてくれた。数日後には、友人のヨットで念願のケープホーン上陸

を果たす事も出来た。

ドレーク海峡は、パナマ運河が開通するまでの間、太平洋と大西洋とを結ぶ主要な交易ルートであり、ケープホーン回航は、富と繁栄の象徴であると同時に最大の難所として航海者の挑戦意識をかき立ててきた。ケープホナーとして富と栄誉を手に入れる事のできる時代は終わったが、海の厳しさは現在も変わらない。航海中「何故ケープホーンか?」と多くのセイラー達から尋ねられたが一言で答えるのは難しい。エベレストに初登頂したヒラリー卿は、同種の問いに「そこに山があるから。」と答えている。学生時代にアルバイトをしながら自作した6.4Mのヨットで日本一周をした事がある。それ以来、何時かケープホーンに行ってみたいと思うようになっていた。

ともあれ長い間暖めていたアイデアを実現し、2009年4月17日、無事ホームポートに戻る事が出来たのは幸運であった。世界各国の多くの人達との忘れがたい出会いがあり、又単独航海であったが故に、自分自身をより深く洞察できたのは何事にも替え難い貴重な体験として記憶に刻み込まれている。時として仕事に取り組む以上の厳しさで航海に取り組んできたが、現在はこれまで自分を支えてくれた家族や友人達を大切にしながら、退職者が残された人生を楽しむ心構えでセーリングを続けている。



# 白楊ヶ丘同窓会東京支部 第34回親睦大会案内

2010年10月30日(土) 午後2時～  
ホテル東京ガーデンパレス 会費：8,000円  
学生は無料(ただし年会費3,000円納入者のみ適用・当日会場での納入可)

## ホテル東京ガーデンパレス ご案内



### ■ホテル東京ガーデンパレス

〒113-0034  
東京都文京区湯島1-7-5  
電話：03-3813-6211  
FAX：03-3818-6060

### 【アクセス】

- JR中央線「御茶ノ水駅」下車、  
「聖橋口」より徒歩5分
- 東京メトロ千代田線  
「新御茶ノ水駅」下車、徒歩5分
- 東京メトロ丸の内線  
「御茶ノ水駅」下車、徒歩5分

※詳しくはホテルのホームページをご  
確認下さい。

### ホームページ

<http://www.hotelgp-tokyo.com/>

中部高校時代の思い出は、球技大会、白楊祭、そしてどうしても修学旅行のシーンが鮮烈に蘇ってきます。車中での演芸大会、京都・奈良の名所めぐり、旅館での数々のエピソード。また「ミグ戦闘機飛来」事件は、修学旅行中に飛び込んできたビッグニュースでした。

現在、東京には80期(未広会)のメンバーが80数名おり、今までは年1回の同期会が集まる程度でしたが、今年度は、白楊ヶ丘同窓会東京支部親睦大会の幹事を担当させて戴くのを機に、月1回の「準備会」を開催、毎回喧々囂々の楽しいやりとりを重ねてきました。

なんと、アフター親睦大会の同期会は、一、二、三次会の予約も完了済み。何しろ私たちの今回のテーマは「33年ぶりの修学旅行」なのです。

親睦大会のメインは、「80期流！函中とつながる、肩のこらない」イベントを企画しています。毎回ご参加いただいている諸先輩後輩の皆様も初めて参加する皆様も、ご一緒に「〇年ぶりの修学旅行」を大いに楽しんでください。

それでは、当日お会いできることを楽しみにしております。

(80期 輪嶋 薫)



(イラスト・山本直樹)

つまみは、郷里函館から仕入れた『とびっきり新鮮画像』と、『TV電話による中部高校との二元中継』!! さあ、ご用とお急ぎでない方はごゆるりと、聴きにいらっしやい、観にいらっしやい!!!

さて、お立会い!  
ロマン派音楽を弾かせたらピカーの野呂佳生〈80期〉が北海道は岩見沢から駆けつけます。まずは極上の『ピアノ生演奏』に酔いしれましょう。

### ♪演奏曲目♪

こどもの情景 作品15 (シューマン)  
小品集 作品118 (ブラームス)  
ピアノソナタ NO.14 「月光」 (ベートーヴェン)  
ほか

<野呂佳生 プロフィール>

函館中部高等学校卒業。武蔵野音楽大学卒業。同大学院修了。東京と函館を中心にリサイタル、室内楽、声楽および器楽伴奏等の活動を行っている。J・Sバッハの作品から、古典派、ロマン派、近現代のピアノ作品の解釈および演奏法を研究。現在、北海道教育大学教授として、岩見沢校にて教鞭を振るっている。

### 編集後記

あつと言つ間に1年がたち、また今年も会報作りの時期が来た。昨年よりは勝手も分かっていたつもりが、まだまだスムーズに制作ができたとは言えないなあ、と反省ひとしきり。先輩方の活動をちよつと早く読ませてもらいながら、なんだか自分も負けていられないなあなどと感じたり、同期は皆どうしているのかなあと考えるひと時もあり、楽しく作業できました。また来年も出来れば、編集を担当してみたいです。

(朝緑高太/99期)

社会人になって以来毎年同窓会に参加し、最近では大先輩方と度々飲み会などで一緒にさせて戴けるようにもなりました。皆様と会う度に中部の絆を感じると共に、この会報に載せきれない程の皆様への武勇伝にいつも刺激を受けています。親睦大会という素敵な出会いの場の皆様にお目にかかれることを楽しみにしています!

(小林秀輝/105期)

同期会が盛んなお陰で「同期会だより」への寄稿が多く、嬉しいことに4年振りで20ページの紙面が復活しました。寄稿記事から賛助広告に至るまで、全その紙面は会員の皆様からの暖かいご支援の賜物です。納めて戴いた年会費を、最大限皆様に還元できる手段としてのこの会報が、一人でも多くの方々に読まれることが原点で、心して編集に携わっています。これからもどうかよろしくお願ひ致します。

(U)

### 東京白楊だより 33号

- 発行 白楊ヶ丘同窓会東京支部
- 発行人 安田 康次 (67期)
- 編集責任者 梅田 やよい (69期)
- 発行日 平成22年9月3日

### 【東京事務所】

〒338-0012  
さいたま市中央区大戸2-19-10  
安田 康次 方  
TEL FAX 048-852-10988